

タイトル:平成 25(2013)年度 研究セミナー

日程:平成 25 年 12 月 13 日(金)～15 日(日)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階 マルチメディアセミナー室(306)

「アブデュルハミト 2 世期における近代教育改革

— ガラタサライ帝室学校における教育内容・卒業生動向を中心に」

小林 馨 (明治大学大学院)

今回、私以外の参加者の方はすべて具体的な博論構想を持って発表に臨んでおり、博士課程に入りたての私が発表することは場違いではないかと、正直不安でした。

しかし、3 日にわたるセミナーは、私にとって今後の研究の糧となるかけがえのない経験となりました。まず初めに、このような有意義なセミナーを企画していただきました先生方、ならびにスタッフの方々に厚く御礼申し上げます。

セミナーでは、発表時間・質疑応答ともに各1時間をとっていただいたことで、自らの研究内容を具体的に示し、それに対して多数の質問・コメントをいただくことができました。結果、自分の研究テーマに対する問題点・改善点が何処にあるのかを、非常に明確にできました。その他のセミナー参加者の発表では、多分野・多地域の興味深い研究を学ぶことにより、大きな学問的刺激を受けました。

私の所属する大学では大学院への進学者、特に博士課程の学生は減少傾向にあります。そのため、他大学の研究者の方々と長時間にわたり意見を交換し合える本セミナーでは、自分の研究を相対化して見つめ直すと共に、研究者として生きていく厳しさを改めて再確認することができました。

また、AA研研究員の藤波伸嘉さんによる博士論文執筆経験談は、同じく近代オスマン帝国史を研究する者として非常に勉強になりました。学部時代から現在まで、様々な興味・関心を持ちながらも根本的な問題意識の枠組みを変えずに自らの研究を高める藤波さんの研究姿勢に大変感銘を受けました。

セミナー後に毎日行われる懇親会で、とても美味しい食事・お酒と共に、セミナーの時間には聞けなかった沢山のお話を先生方とすることができたことも、貴重な経験となりました。特に先生方の院生時代や過去の国際学会での体験談は非常に興味深く、イスラーム史研究の歴史の一端に触れられた気がします。

セミナーの改善点としては、最終日に口頭で申し上げましたように、積極的な広報活動を行い、より広く様々な大学の若手研究者に存在を認知してもらうことが必要かと思います。

以上を、貴重な経験をさせていただいた今回のセミナーの感想とさせていただきます。

イスラーム研究セミナーがより意義深いものとして発展するよう、祈念しております。